

平成21年度 宇都宮市立岡本北小学校学校評価書

「うつのみや学校マネジメントシステム」

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」の調和のとれた、心豊かな児童の育成を推進する。

【具体目標】

「健康で明るい子ども」「よく考えてはんだんできる子ども」「思いやりのある子ども」「ねばり強く進んでじっせんする子ども」

【子どものスローガン】

つよく やさしく かしい子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれる教育活動を展開するとともに、「安全で安心できる学校」「明るく楽しい学校」「地域から信頼される学校」を目指す学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）

- (1) 21世紀に生きる心豊かな人間を目指し、その基盤となる資質や学力の向上に努める。
- (2) 教育者としての使命を自覚し、自己研修に努めるとともに、愛情と信頼、創意と工夫による生き生きとした教育活動の推進に努める。
- (3) 社会的規範の中で、基本的な生活習慣や健康で安全な生活を、自ら律していける能力をもった児童の育成に努める。
- (4) 「宮っこ未来ビジョン」の趣旨をふまえ、明るく活気にあふれる教育活動を実践しながら、心豊かでたくましく生きる児童の育成と好ましい校風づくりに努める。
- (5) 開かれた学校づくりを目指し、家庭や地域社会との連携・融合を図り、相互に補完し合いながら、地域に根ざした教育活動の推進に努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

（学校運営）

○人権尊重を基にした安全で明るく楽しく地域から信頼される学校づくり

（児童生徒指導）

○自他を尊重し、生き生きと自己表現できる児童の育成

（健康・体力）

○自ら考え、生き生きと運動に取り組む児童の育成

（学習指導）

○基礎・基本を確実に身に付け、児童が意欲的に学ぶための支援の工夫と実践

5 自己評価

(Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標)

(評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施)

(「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充

B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入)

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「自分は学校が好きである」⇒児童の肯定的回答 80%	「つよく やさしく かしこい子」のスローガンの浸透を図り、活気のある学校づくりを進める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.5%で、指標の80%を上回った。 本年度は、「業間時の人権集会」や「児童会主催のあいさつ運動」が設けられ、活気ある活動が展開された。
		学校生活を楽しく送れるように北小タイムや集会活動などを工夫しその活性化を図る。	A	【次年度の方針】 ・おおむね成果が見られたので、今後も継続する。楽しい集団活動を体験できる場を設定し、更にその充実を図る。
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なところをしっかりと教え熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80%	児童一人一人の話をよく聞き、声をかけ、よいところを認め伸ばす指導をする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 97.6%で、指標の80%を上回った。更に前年度と比較しても保護者(87.7%)とともに上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も、担任と少人数指導教員、特別支援教育コーディネーター、かがやきルーム指導員が連携し、児童一人一人の理解に努める。
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒保護者の肯定的回答 80%	学校でのきまりを徹底するため「学習の約束」「生活の約束」を掲示し全職員が共通理解の下、指導に当たる。	A	【達成状況】 ・今年度の保護者の肯定的回答は 85.2%と、指標を上回った。しかし、 <u>昨年度の肯定的回答より、2.5ポイントと若干の低下が見られた。</u> 【次年度の方針】 ・今年度同様、「学習の約束」「生活の約束」を児童に配布・教室に掲示するとともに、保護者へも内容を知らせ、理解と協力を得、全職員・保護者が共通理解の下、指導にあたる。
教育全体の状況	A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体のアンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人ていねいに教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 80%	学習の目標を明確にし、個に配慮した効果的な指導や支援体制をとりながら取り組む。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 96%で、指標 80%を上回った。 目あてや学習の手順の明示、学びを深める学習形態の研修や算数科での習熟度別少人数学習の実施、一人一人を大切に作る授業づくりや支援体制が効果的だった。 【次年度の方針】 ・小集団の話し合いや話型の活用を工夫を図り、個々の考えを広げたり、理解を深めたり、表現力を高めたりする。

	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課・授業・行事などは適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答 80%	児童が主体的にしかも充実した学校生活を送れるよう学校行事や日課を適切に設定する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 92.9%で、指標の 80%を上回った。夏季休業中に授業日を3日間設けた。授業時数増については、児童の負担軽減を考慮して日課を工夫し下校時刻を早めた。 【次年度の方針】 ・次年度も夏季休業中の3日間を授業日とし、時数確保のために学校行事等の効果的運用の工夫を図る。 ・日課について、児童の活動を中心にしたものとしたが、朝の読書タイムについて時間設定等の改善をする。
学校運営の状況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学年便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」⇒地区住民及び保護者の肯定的回答 80%	「うつのみやオープンスクール」を含め、学校公開を2日以上実施する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 90.7%で、地域住民の肯定的回答は 100%で、指標の 80%を上回った。 地域協議会との情報交換会については、学校公開時に一部職員と学習・生活・交通安全について話し合いを持った。 【次年度の方針】 ・「うつのみやオープンスクール」及び「地域住民との連携」について今後も継続する。 ・地域協議会と職員との情報交換の実施を年間行事に位置づけ、定着化を図る。
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている」⇒保護者の肯定的回答 80%	地域協議会との連携の一環として、地域の方との懇談する機会を設け、情報交換を行う。	A 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 84.2%で、指標の 80%を上回った。 各学年とも多くの学習ボランティアに参加していただいた。更に、出張授業・出前授業の充実を図った。 <u>しかし「教職員は、保護者・地域住民と連携協力した教育活動に積極的である」の保護者肯定的回答率が、73.4%と下回った。</u> 【次年度の方針】 ・今後も継続していくが、各学年の系統性(回数・教科領域との関連性等)を検討していく。
		地域人材や専門家派遣人材を活用した授業を各学年1回以上は実施する。	B

学 校 運 営 の 状 況	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き学習しやすく潤いのある環境である。」⇒保護者の肯定的回答 80%	清掃の手順を明確にしたり学級活動で指導したりし、環境の美化に自主的に取り組める児童の育成に努めるよう、廊下・校庭等の環境整備を計画的に実施する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は66.9%で指標80%を下回った。 ・掲示物等学習成果の環境整備には改善が見られたが、清掃活動やごみを落とさない・拾うなどの指導が十分ではなかった。更に、施設の古さもあり限界がある。
		清掃強化週間やPTA奉仕活動を通して児童への清掃への意識を高める。	A	【次年度の方針】 ・清掃の手順を明確にしたり学級活動で指導したりし、環境の美化に自主的に取り組める児童の育成に努める。 ・清掃強化週間やPTA奉仕活動において児童への清掃への意識を高める。 ・職員による作業等により、トイレ内の環境整備や清掃を実施する。
	A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員が互いに指導力向上に取り組む、指導の工夫・改善に努めている」⇒保護者の肯定的回答 80%	日常化・継続化・協働化できる校内研修を実施し、児童の学びの意欲を喚起する授業の工夫に努める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は68.9%で指標の80%を下回った。 ・研究授業の成果を自学級に生かす手立てを講じるなど、指導の工夫、改善に努めてきたが、保護者の十分な理解を得るまでには至っていなかった。
		学校公開日には通常の分かる授業を展開し、教員の指導力や授業力を正しく評価していただくようにする。	A	【次年度の方針】 ・一人一授業を公開し合い、研修を充実させることにより、教師の授業力向上に努める。 ・自己評価シートを用いた自己評価や児童による評価を取り入れ、授業改善に努める。 ・研修や研究授業の様子や成果等を、保護者に伝える努力をする。
	B1 人権尊重を基にした安全で明るく楽しい居がいのある学校づくりを目指す 【数値指標】 全体アンケートの「子どもの言動や様子から学校の楽しさが伝わってくる」⇒保護者の肯定的回答 80%	児童の自己肯定感を高める教育活動を積極的に取り入れるとともに特別支援教育だよりや学年だより等で保護者への啓発等に取り組む。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は89.4%で指標の80%を上回った。 人権教育を学校課題として推進し、一人一人を大切にする学級づくり、授業づくりが、児童の自己肯定感を高めることに効果的だった。
				【次年度の方針】 ・学習環境の整備（基本的学習態度の育成・認め合う雰囲気づくり）、授業力の向上、児童の表現力の向上（話し方・聞き方の手引きの有効活用等）に努める。

教育活動の状況	生活	A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童はあいさつをしている」⇒保護者の肯定的回答 80%	児童会による朝のあいさつ運動を実施するとともに、「生活の約束」を家庭にも配布し、保護者会等を通して連携強化を図る。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、58.1%と、指標を下回った。児童の肯定的回答の87.1%との開きが見られ、現状と児童の感じ方に差異があることが見て取れる。
			望ましいあいさつを具体的に提示・指導し、児童・保護者・地域住民・教職員の共有のもとで、地域全体で互いに気持ちよくあいさつができるよう、あいさつ運動を展開する	A	【次年度の方針】 ・児童会による朝のあいさつ運動の他、あいさつコンテストなど、あいさつに自ら取り組めるような、機会を多く設定する。 また、望ましいあいさつについて、具体的に提示し、継続的に指導するとともに、地域全体で互いに気持ちよくあいさつができるよう、あいさつ運動の展開を強化する。
	健康・体力	B2 学校のきまりを守り協力して活動している。 【数値指標】 全体アンケートの「北小の児童は、決まりやルールを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%	目標の掲示や重点目標の設定等、児童指導担当の教師がチームを組んで指導に当たり、クラス毎に実施状況の反省をする。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は93.3%であり、指標を上回った。 【次年度の方針】 ・目標の掲示や重点目標の設定等、児童指導担当の教師を中心に全職員で指導にあたる体制作りを進め、指導にあたり、クラスごとに達成状況の反省を行う。
		A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いのない食事をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「自分の子どもは朝ごはんを食べ、好き嫌がなく食事をしている」⇒保護者の肯定的回答 90%	朝食に関する掲示や給食だよりをとおして、食育に対する意識を高める。	A	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は約85.4%であり、指標の90%を下回ったが、H20年度よりもわずかに上昇傾向にある。また、給食の残食量も減っている。
	健康・体力		朝食をとらない児童に対しては個別指導を実施し、状況に応じた指導を充実する。	B	【次年度の方針】 ・状況に応じた児童への指導を充実する。 ・引き続き、掲示物、給食便り、学年便り、学級懇談会等の機会を捉え、食の大切さ・偏食の矯正について保護者への啓発を図る。
		B3 自分の健康に関心を持ち心身の保持増進に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「食事のバランスや睡眠時間テレビやゲームの視聴時間など子どもの心身の望ましい生活習慣に心がけている」⇒保護者への肯定的回答 80%	学習や生活に悪影響を及ぼす歯や近視等の疾病の予防や治療に取り組めるよう保護者へ呼びかける。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は87.7%で、指標の80%を上回っており、さらに、昨年度の割合よりも上回った。 【次年度の方針】 ・本年度同様、掲示物、保健便り、学年懇談会等で丁寧な資料による啓発を継続していく。

教育活動の状況	学 習	A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童は先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」⇒保護者の肯定的回答 80%	教科の特性に応じた指導や「学習の約束」「話し方・聞き方」をもとに発達段階に応じた指導を全職員で継続して取り組む。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的評価は 80.4%で指標の80%を上回った。 ・基本的な学習態度の育成を努力点の重点に掲げ、「学習の約束」をもとに共通の指導を行ってきたことが効果的だった。 ・「話し方・聞き方」の手引きの活用により、児童が落ち着いて話したり聞いたりできる雰囲気醸成されてきた。 【次年度の方針】 ・指導の成果の共有化を図ったり、学年会で検討する機会を設けたりして、個人差、学級差、学年差の解消に努める。
	学 習	B4 基礎的・基本的な学力を確実に身に付ける。 【数値指標】 全体アンケートの「授業では、分かる楽しさやできた喜びが感じられる」⇒児童の肯定的回答 80%	個に配慮した指導、習熟度別少数指導、基礎・基本的内容の習熟の時間の教育課程への位置付けをしながら基礎基本の定着補充に努める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.0%で指標の80%を上回った。 ・基本的な学習態度の育成や特別支援体制、習熟度別少数学習、家庭学習の習慣化（家庭学習の手引きの活用）などが効果的だった。 【次年度の方針】 ・基本的な学習態度の育成を柱とした学習環境の整備、特別支援体制、習熟度別少数指導、家庭学習の習慣化に向け、継続的に取り組む。
本校の特色・課題等		B5 様々なふれあい活動を通し、心豊かな児童の育成に努める。 【数値指標】 全体アンケートの「外部の方との学習や縦割り班活動を協力して楽しく行えた。」⇒児童の肯定的回答 80%	教科・特別活動等での高齢者・外部人材等のふれあい活動や異学年での縦割り班活動を積極的に行い、心で振り返る時間を設ける。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.0%で指標の80%を上回った。 ・生活科や総合、家庭科、道徳や学活等での外部人材の活用、出前授業の実施等、各学年とも地域の力を活用できた。 ・異学年とのふれ合いを重視した児童活動を、心で振り返る場を設けながら効果的に実施できた。 【次年度の方針】 ・人権教育との関連を重視した縦割り班活動を展開する。 ・地域の方との学習が、自分にとってどんな意味や価値をもつものだったかの振り返りに深まりをもたせ、より豊かな体験活動としていく工夫をする。

〔総合的な評価〕

（学校運営）「人権尊重を基にした安全で明るく楽しく地域から信頼される学校づくりを目指す。」について

- ①「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」「教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。」「日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている」などの評価指標は、今後もこの学校の取組を保護者や地域の方々にアピールすることで理解を得、信頼ある学校づくりを目指す。また「学校と家庭・地域・企業等との連携・協力」については、効果をあげ、数値目標を達成できている。更に、その活動の様子を保護者の方に見ていただく機会を増やしたり、ホームページや学校便り等を利用したりし、情報を発信したい。

- ③「校内は、学習にふさわしい環境になっている」については、清掃強化週間やPTA奉仕作業等を通して、清掃の意識を高めるとともに児童の清掃指導を充実させ、その技能を高められるようにする。

（児童生徒指導）「強い気力・体力を持ち、自ら考え、お互い協力して行動できる児童の育成」について

- ④「元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている」の評価指標については、保護者・教職員ともに昨年度を下回った。校内での「望ましいあいさつ」の共有を図るとともに、互いが気持ちよくあいさつできる学校・地域づくりを目指して、「地域でのあいさつ運動」と広げていけるような試みをする。

（健康・体力）「自ら考えいきいきと運動に取り組む児童の育成」について

- ⑤「休み時間や放課後などに積極的に運動をしている」の指導指標については、各種検定表の積極的活用、行事や休み時間の有効活用により十分成果が上がったので今後も継続して取り組みたい。

（学習指導）基礎・基本を確実に身に付け、児童が意欲的に学ぶための支援の工夫と実践について

- ⑦「分かりやすい授業・きめ細かな指導」「分かる楽しさやできた喜び」「一人一人を大切にした学級経営・学校経営」の指標評価は、目あてや学習の手順の明示、基本的な学習態度の育成、整備された特別支援体制、人権教育の推進、習熟度別少人数指導、家庭学習の習慣化、共通理解に基づいた学習指導（各種手引きの活用）等が効果を上げ、十分に達成できた。

「指導力向上、指導の工夫・改善」の保護者の肯定的評価は指標評価を下回った。研究授業の成果を自学級に生かす手立てを講じるなど指導の工夫・改善に努めてきたが、保護者の十分な理解を得るまでには至らなかった。一人一授業の公開、研修の充実と保護者への広報、授業の自己評価シートを用いた評価を取り入れるなど、授業改善に努めていく。

6 学校関係者評価

- 平成21年度「学習定着度調査等」の結果をみると、ほぼ宇都宮全市の正答率を上回っている。素晴らしいことで今後も続けてほしい。
- あいさつについて、よくしてくれる。街を歩いているとよく声をかけてくれる。これは防犯上も効果があり、今後、中学校と連携して取組とよい。
- 清掃については、子どもたちは「90%以上」の肯定的回答でよいと思う。保護者は、家庭のトイレと比較しているのでなんとも言えない。
- 保護者・地域とも「子どもを叱る」ことに遠慮している。
- 「地域の学校づくり」の推進の観点から、地域協議会との連携の一環として、地域の方と教職員と懇談する機会を継続的に増やすようにする。
- 肯定的回答比較表で、項目の「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」では、教職員は「100%」だが、保護者は「78.5%」と認識の違いがある。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- 学校からの情報発信を有効に活用して、児童の様子や教職員の取組などを地域住民や保護者に対し分かりやすく紹介する。また、評価指数について、目標指数や具体的取り組みや肯定的回答率等を検討し、アンケート結果から、地域住民や保護者の率直な回答を十分尊重して、次年度の学校運営や教育活動の改善に役立てていく。
- 地域住民や保護者との連携を有効に進め、「あいさつ運動」「気持ちよい言葉遣い」等の推進に対しては地域協議会においても情報交換を行い、有効な手段を工夫していく。